

2020年6月21日 礼拝説教要旨

詩編講解説教19「命の言葉」

詩編19：2～11、Ⅱコリント3：18

この詩はわたしたちの視線を天へと向けさせます。そこには当然大空が広がっています。また5節後半以下には太陽のことが出てきます。今日は部分日食があるそうですから、それこそ大空を見上げる人々も多いのではないかと思います。そこでは天を見上げて、宇宙の神秘に思いを馳せ感動するということがあります。私も星が好きで流星群があると聞くと時々阿蘇の方まで星を見に行くことがあります。星空を眺めていると、宇宙の壮大さに気付かされ、また人間がいかに小さい存在であるか。自分の悩みも小さく感じられることがあります。

しかしこの詩人は空を見上げてただ感慨にふけるということではなく、もっと深いところを見えています。「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す。昼は昼に語り伝え、夜は夜に知識を送る」(2～3節) これは擬人化しているわけで、実際に空が何かを語っているわけではありません。ですから耳をすませても何も聞こえないのですが、しかし詩人はすべてのものが神さまの栄光を語り合い、賛美していると言います。しかも「その響きは全地に、その言葉は世界の果てに向かう」(5節) のです。これは被造物の賛美であり、創造者と被造物が呼応し合い、響き合うことと理解してよいでしょう。

創世記の天地創造の物語を思い起こします。神さまが天地万物を創造され、最後に人間をお造りになられました。そこには、人間が神さまにかたどって創造されたことが書いてあります(1：27)。神さまにかたどるといのは、「イマゴ・デイ」と言って聖書の示す重要な人間理解のことですが、これは姿、形が似ているということではなくて、神さまと通じ合う存在ということです。例えば人間同士は同じ形を持っていますから、通じ合うことができます。でも人間と鳥は通じ合えない。人間と魚は通じ合えません。ところが驚くべきことに人間は神さまと同じ形を持つのです。だから神さまから語りかけられたら応えることができる。そこに人間を造られた創造の目的があります。そしてすべての被造物は必ずそういう目的を持って造られているのです。自然は人間のように神さまの形は持たないのですが、でもそれぞれの仕方で創造の目的を果たしています。例えば太陽はあの輝き、熱を持って創造の目的を果たしています。月も星も規則正しく動くことで創造の目的を果たしています。あらゆる自然の営みが、それぞれの仕方で神さまの栄光を現しているのです。それゆえに神さまはすべての造られたものをご覧になられて「極めて良かった」と祝福されました(創世記1：31)。

ところが人間はこの神さまと通じ合う神さまの形を自ら捨ててしまいました。それがあの最初の人間アダムとエバの失敗であり、聖書の伝える人間の罪です。神さまの形を失ってしまったので通じ合えないのです。神さまの語りかけに応えることができない。それよりも人間の欲望の赴くままに、自分勝手に生きていくようになる。人間の孤独と虚無がそこに生まれました。それは本来の創造の目的にかなわない、不自然な生き方です。それが今わたしたちが生きているこの世界の現実なのです。例えば、人間が自然を破壊している現実があります。先進国と言われる国々が経済や人間の利便性ばかりを追求して環境を破壊してきた。その結果、温暖化は加速度的に地球規模で広がっています。最近はその地球の悲鳴がようやく聞こえてきて、「持続可能な開発目標」ということが提唱されています。でもこのような取り組みが間に合うかどうかはわかりません。事態はより深刻かもしれない。それは人間が神さまの形を失い、

創造の目的にかなわなくなったことに原因があります。だから自然の声、被造物の叫びを聞き取ることができず、人間の都合のいいように利用してきたのです。人間が信仰によって本来の創造の目的にかなう人間に回復されなければなりません。

ではどうしたら人間は御前に回復されるのでしょうか。それが8節以下に記されていることです。注目していただきたいのは、「律法」「定め」「命令」「戒め」「畏れ」「裁き」と言葉が並びますが、これらはいずれも神さまの言葉を指しています。神さまの言葉がわたしたち人間の魂を生き返らせ、知恵を与え、喜びを与え、目に光を与える。神さまの言葉が人間を生かす本当の命なのだと伝えてあります。「蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い」(11節)とあります。甘いものは疲れを癒し元気にします。神さまの言葉はそのように心地よく、生きる力を取り戻すものとしてわたしたちに与えられています。

そしてこの神さまの言葉こそ、イエス・キリストご自身であることをわたしたちは忘れてはなりません。ヨハネ福音書の最初のところを思い起こします。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」(1:1)そして「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」(1:14)キリストこそ、神さまの言葉、神さまのご意志の現れであり、このキリストという神さまの言葉によって、人間はもう一度、本来の人間、創造の目的にかなう神さまのかたちを回復するのです。

先週は、久しぶりに保育園でセミナーをしました。コロナの前と後で何が変わりましたかという質問をしました。それぞれにご苦労がありました。やはり保育園というのはすべてが濃厚接触、スキンシップによって成り立つようなところなんです。子どもたちは遊びや行事を通して社会性や連帯感を養います。しかし今それが制限されている。でもわたしたちには神さまの言葉、聖書が与えられています。ここから命の言葉をいただいて子どもたちに接することができるのは幸いです。考えてみれば教会はそれを行ってきたのです。神さまの言葉による人格形成。その本来の使命に立ち返ることが重要です。教会はこのために世に存在し、御言葉を語り続けているのです。創造の目的にかなう人間の回復のために、イエス・キリストの福音を弛まず伝えていきましょう。

天の父よ。わたしたちは罪を犯し、あなたのかたちを失って、あなたの栄光を響かせることができなくなっておりました。被造物の叫びが聞こえず、これを壊しておりました。そして隣人の声も聞けない現実があります。それほどに言葉を失っていたのです。けれどもあなたはイエス・キリストという命の言葉を与えてくださいました。この命の言葉によって、わたしたちは御前に回復され、また関係を取り戻すことができます。どうぞこの命の言葉を常に与えてください。主の御名によって祈ります。アーメン。